

観光の軸 3 駅連携構想がついに完成！

旭座を内包したまちの駅（白鬚）が完成して、道の駅（和久里）、食文化館（川崎三丁目）を中心とする海の駅とともに、小浜の観光の軸となる、「3 駅連携構想」が本格スタートします。

【3 駅の沿革】

年月	内容
平成 15 年 9 月	食文化館が開館
平成 23 年 3 月	道の駅「若狭おばま」がオープン
平成 25 年 8 月	小浜市観光まちづくり計画を策定
平成 25 年 12 月	川崎地区全体を海の駅として位置づけ
平成 27 年 7 月	まちの駅建設工事開始
平成 28 年 5 月	まちの駅オープン予定

まちの駅の役割と生み出す価値

① まちなかの心地よい居場所

市民や来訪者がゆったりとした豊かな時間を過ごし、小浜の生活を楽しめる空間をつくります。

② まちなかのハブステーション（主要な駅）

市民と来訪者をつなぐ交流の拠点となり、来訪者がまち歩きや、市内観光を満喫するための基盤をつくります。

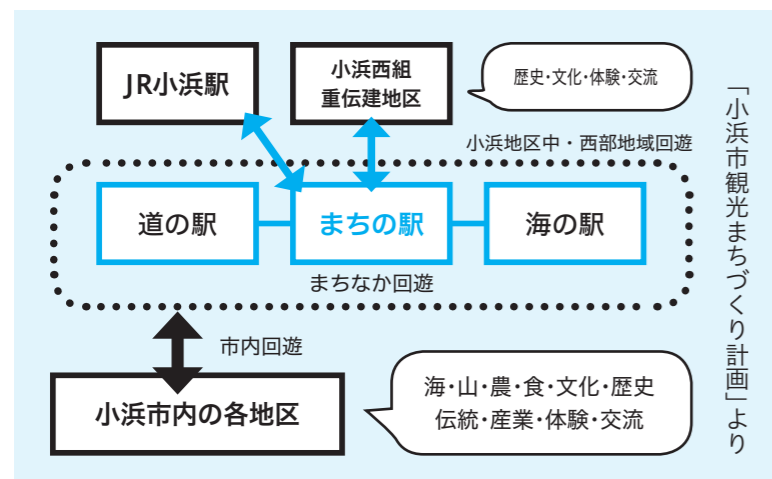
③ 小浜の歴史・文化が香る場所

小浜らしさが感じられる場所であり、歴史、伝統、文化を発信し、体験できる小浜のシンボルをつくります。

3 駅から発信！効果を市内全域に

各駅は、地域活性化の役割を担う場所です。単体としてだけでなく、3 駅が連携することにより、観光客の回遊性を生み出します。滞在時間の延長による観光消費を促し、市の産業および経済を活性化させるための重要な拠点になります。

【市内と小浜地区中・西部地域の回遊性の創出イメージ】



「小浜市まちの駅」の完成予想図

今、朝日が高く昇る
「まちの駅・旭座」
5月1日(日)グランドオープン！

いよいよ、まちの駅・旭座がオープン

5月1日(日)に、「小浜市まちの駅」が開業します。明治期の芝居小屋「旭座」を中心としたまちの駅は、小浜の歴史や生活文化を体験できる場所として、市民のほこりとなる観光・文化の拠点施設を目指すものです。大型イベントの開催など、ハレの日はもちろん、日常的にも人が集い、にぎわいを創出することで、まちの活性化を図ります。

日常的なにぎわいを創出するため、まちの駅の運営には、指定管理者を公募しました。民間企業のノウハウを活用し、地域の住民や各種団体の連携によるイベントの開催で、施設の利用促進を図っていく予定です。

また、既存の「道の駅」、「海の駅」と連動させることで、まち歩き観光や、市内回遊を促進し、効果が各地に行き渡り、まち全体が活性化することが期待されます。

皆さんも、ぜひまちの駅にお越しください。

■問い合わせ 商工観光課 ☎64・6021

小浜市まちの駅

住所：白鬚 111 番 1
敷地面積：3,924.45㎡
施設機能：旭座、観光情報提供施設、休憩施設、トイレなど



People



小浜地区まちづくり協議会 代表
きのした ひろあき
木下 弘明 さん(55歳・駅前町)

小浜地区住民でつくるまちづくり協議会の代表で、小浜市まちの駅活用企画実践委員の木下さんに意気込みを聞きました。まちの駅のオープンを前に、「建設中のまちの駅の場所は、鯖街道の起点でもあり、かつては多くの人が集うところでした。再び、人と人が交流する拠点になってほしいです」と、期待を寄せます。まちづくり協議会としての取り組みを尋ねると、「施設の指定管理者や市と連携して、まちの

まちの駅を市民全体で盛り上げたい

駅での、イベントの企画や周辺景観の整備を行っていきたくです」と、意欲を示しました。「まちの駅は、商業面だけでなく、文化的な面でも小浜の新しい発展の場所となる可能性があると思います」と、話す木下さん。「そのためには、地域住民をはじめ、市民全体での盛り上げが不可欠です。旭座や屋外広場は気軽に訪れ、多くの体験ができる場所です。皆さん、ぜひ足を運んでください」と、呼びかけました。

よみがえる旭座 夢や希望がある

文化協会では、旭座の開館に合わせて、5月8日⑩に、『旭 T H E ぶんかまつり』を企画しています。副会長の重田さんに公演に向けての意欲をインタビューしました。「協会では、旭座開館を盛り上げようと、洋楽や邦楽をはじめ、団体の力を結集した、多彩なステージを予定しています」「オープニング期間は、お茶席や生け花の展示もあり、多くのお客さんに楽しんでいただけるものを目指しています」と、



小浜市文化協会 副会長
しげた みゆき
重田 美幸 さん (72歳・多田)

話す重田さん。自身も、子どもの頃に、旧旭座で芝居や浪曲を見たことを覚えているそうです。「戦後の何もなかった時代。苦しく、つらい中、庶民が文化に触れられる旭座の存在は大きかったです」と、振り返ります。重田さんは、現代によるみえがえった旭座にも夢や希望があると言います。「子どもから大人まで、気軽に文化に親しみ、感動やエネルギーを生む場所になってほしいですね」と、期待を込めました。



株式会社オーイング まちの駅 駅長
たかひつや
瀧 勝也 さん (50歳・若狭町)

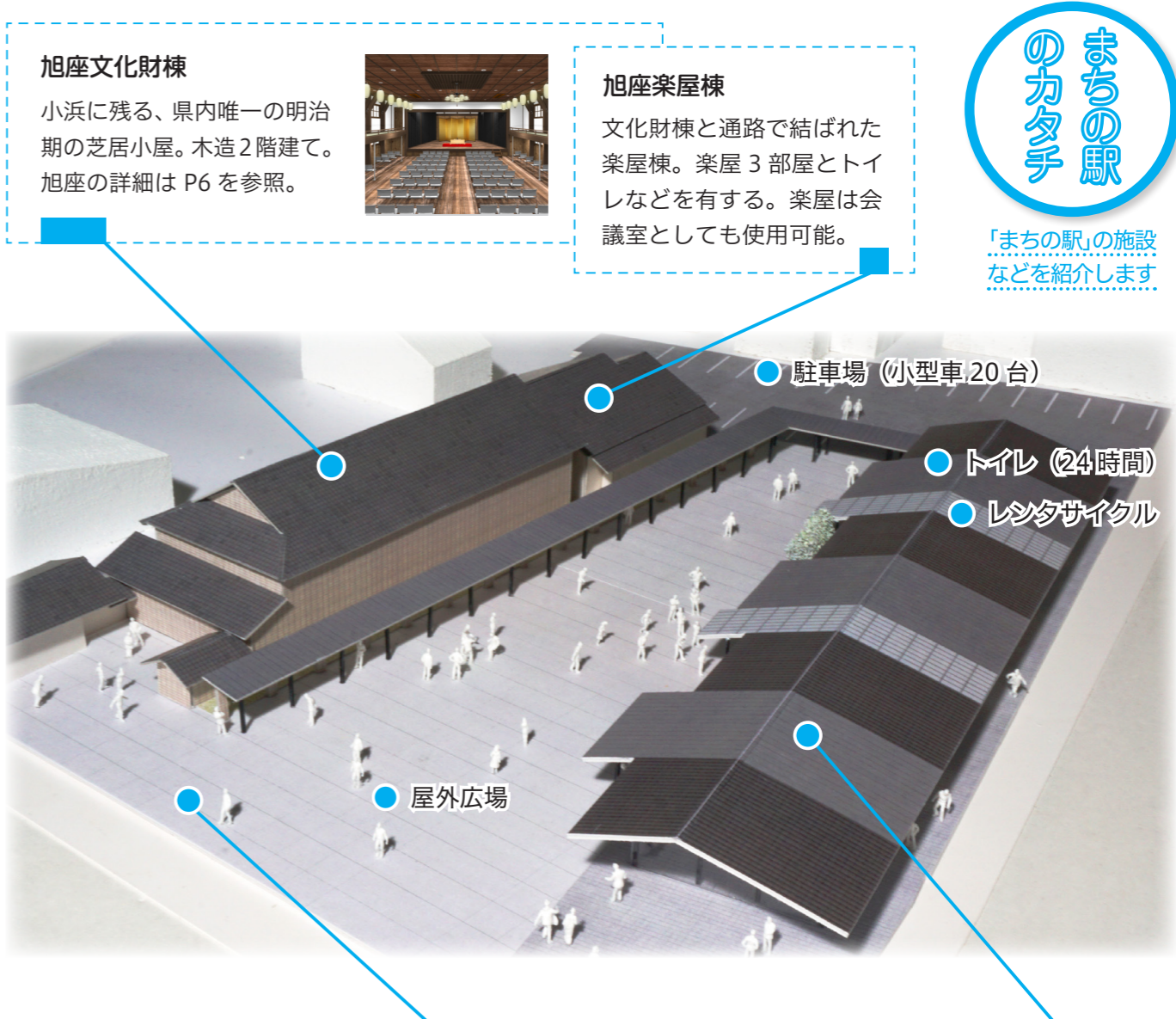
まちの駅の指定管理者として運営に携わる株式会社オーイング。5月から駅長を務める滝さんに話を聞きました。「地域の皆さんに育てていただき、弊社も創立20年が経とうとしています。地域や社会への貢献を第一に、まちの駅を小浜の活性化と元気再生につなげたいと考えています」民間会社が運営する強みを尋ねると、「皆さんの声をすぐに反映できる点です。公共施設なので規制もありますが、誰もが利用できる」と、意欲を見せました。

小浜の活性化と元気再生につなげたい

利用しやすいように工夫したいです」と、話します。まちの駅付帯施設への市内店舗の出店や、旭座への県内40社余りの企業団体の協賛などが決まり、オープンに向けての準備も着々と進んでいます。「観光客が小浜の魅力を肌で感じ、市民と交流できる場になりたいです」と、話す滝さん。「まちづくりの主役は市民の皆さんです。皆さんと協働・連携しながら、会社として一生懸命取り組んでいきます」と、意欲を見せました。

まちの駅
の力
カタチ

「まちの駅」の施設などを紹介します



旭座文化財棟

小浜に残る、県内唯一の明治期の芝居小屋。木造2階建て。旭座の詳細は P6 を参照。



旭座楽屋棟

文化財棟と通路で結ばれた楽屋棟。楽屋3部屋とトイレなどを有する。楽屋は会議室としても使用可能。

● 駐車場 (小型車20台)

● トイレ (24時間)

● レンタサイクル

● 屋外広場

周遊レトロバスの運行

3 駅をつなぐバスを運行。



3 駅ライブカメラ設置

各駅の状況などを確認できる、屋外カメラを設置。モニターを通じてライブ配信。

運営 — まちの駅指定管理者

『株式会社オーイング』

指定期間：平成 28 年 5 月 1 日～31 年 3 月 31 日
平成 9 年 3 月設立。主な業務は、警備保障業務、ビル総合管理業務など。
社員総数は約 500 人。

本社住所：高浜町東三松 9 号 9 番地 13
小浜支店住所：遠敷六丁目 603-5 ☎ 56・5885

付帯設備・商業機能

飲食の提供

『刺身処かねまつ』



特産品の取り扱い

『つみきハウス』



付帯設備・観光案内機能

情報提供コーナーやコンシェルジュ（総合案内係）を設置。各種パンフレットの提供や、まちあるきツアーの開催などを予定。



「旭座」の歴史・設備
などを紹介します

貴重な明治期の芝居小屋

旭座は、住吉区に現存していた、明治期に建てられた木造の芝居小屋です。

全国に3千以上あったと言われる芝居小屋は、現在で30数所しか現存していません。旭座は県内唯一、戦前の芝居小屋の系譜を引く貴重な建物として評価されています。

当時は、非日常で魅力的な空間として、庶民に親しまれ、港町として栄えた小浜の娯楽文化を象徴する建物だったといわれています。

近代の民衆文化を知る貴重な遺産として、平成26年6月に市指定文化財に指定。「まちの駅」建設に伴い、中心的施設として移築復原されます。



左上/復原された旭座のシンボルである朝日をあしらった懸魚、中上/旭座完成予想図（内観）、右上/旭座完成予想図（外観）
左下/旧旭座で使われていた大入袋（個人所蔵）、中下/旧旭座の映画チラシ（個人所蔵）、右下/旧旭座の外観（平成25年）

オープニングイベント（5月1日～8日）

- 5月1日㊤ 竣工式、伝統芸能、屋外ステージなど
 - 5月2日㊤ シンポジウムなど
 - 5月3日㊤ 旭座こけら落とし落語会
口上付き豪華番組（出演：桂文枝 ほか）
 - 5月4日㊤～7日㊤ 各種イベント
 - 5月8日㊤ 旭 THE ぶんかまつり
- ※1日、3日は浜参道や八幡神社前でもイベント予定
※近日中に HP やチラシなどで詳細を公開

当時の活動内容

旧旭座は、庶民の芸能娯楽場、講演会や演説会、祝賀会、憲政会議員大会などを開催する、小浜の大集会施設でした。昭和初期から戦後にかけては映画館としても活用されました。

新旭座の復原概要

所在地：白鬚 111 番 1（移築復原先）
構造：木造、2階建て、棧瓦葺き
復原方針：棧敷席や舞台の痕跡に従い、明治43年当時の姿を基本に、芝居小屋として復原（近代建築福井研究会の「旧旭座文化財調査報告書」による）

まちの駅・旭座の貸し館はこちらから

「旭座（ホール、楽屋）」や「屋外広場」の貸し館の受け付けを、4月30日㊤まで小浜市文化会館（大手町）で行っています。
貸し館の申請や、使用料など詳細は、文化会館まで直接もしくは電話 53・9700。
※5月1日㊤以降は、旭座が窓口になります

文化財としての建物を通して、その時代の文化や生活、建築技術など、多くのことを知ることができます。
明治という時代は、庶民がいろいろな文化的楽しみを体験できるようになった新しい社会でした。旭座は、その時代を、とてもよく表している建物だといえます。

られます。みんなが行きやすい場所に、文化的な楽しみを提供する施設が欲しかったことがよくわかります。
全国には、もっと大きな芝居小屋もありますが、旭座は親しみやすい手頃な大きさだといえることがよくわかります。日本人には、「新しいものの方が良い」という価値観がありますが、いろいろな時代・世代のものがあって、まちや人々の暮らしが豊かになるのだと思います。文化財建造物の魅力は、その時代に一生懸命に造った建物は、時代が経っても、親しみを感じることができるといえる点だと思います。

熱心に復原工事に携わられた多くの皆さんに、とても感謝しています。小浜の文化の中で生まれた旭座に、誇りと親しみを持って、いたわりながら使ってほしいですね。

小浜で生まれた旭座に誇りと親しみを



福井大学大学院 工学研究科
講師 高嶋 猛 さん（65歳・福井市）

まちの駅を地域活性化の核として



小浜市長 松崎 晃治 さん

小浜は、歴史・文化、伝統、自然景観、食といった、多種多様な魅力ある地域資源を、市内各所に有しています。こうした宝物をいかにもうまく活用し、にぎわいを生み出していか、また、いかに将来に継承していくかがたいへん重要で、この度、オープンする「まちの駅」では、その中心的施設として「旭座」を復原

し、市民の宝物、生きた文化財として活用していくこととしています。
「旭座」は、明治期の芝居小屋としての歴史性を持っていますが、復原にあたっては、芝居に限らず、さまざまな使い方ができるように工夫しており、現代のニーズにあつた利活用を図っていただきたいと思います。

「旭座」をはじめ、各テナントや屋外広場などが市民や観光客による、日常的なにぎわいの場となり、周辺商店街や小浜西組重伝建地区などと一体的に活気づいていくことが重要です。そうしたにぎわいが継続されることにより、将来、必ずや小浜の宝物として市民に愛され、にぎわいの拠点として継承されていくものと確信しています。